

DICOMO2022 論文フォーマット

情報太郎¹ 処理花子^{†1}

概要： このパンフレットは、DICOMO2022に投稿する論文の最終版を、MS-Wordを用いて作成し提出するためのガイドである。このパンフレットでは、論文作成のためのMS-Wordテンプレートファイル(.dot)について解説している。また、本パンフレット自体も、情報処理学会論文誌用のMS-Wordテンプレートファイル(<https://www.ipsj.or.jp/journal/submit/style.html>)を元にしているので、必要に応じて雛形として参照されたい。

なお、論文フォーマットについては、上記の原稿執筆案内に記載されたフォーマットではなく、本フォーマットをご利用いただきたい。

DICOMO2022 Paper Format (optional)

TARO JOHO¹ HANAKO SHORI^{†1}

1. 論文フォーマットについて

ページ数の制限は設けない。フルペーパーに相当する論文を基幹論文誌推薦の対象とする。

DICOMO2013より、和文原稿において英語のアブストラクトは記載しないこととした。また、DICOMO2014より、本文の言語と同じ言語の題名と著者名は必須、そうでない言語の題名と著者名はどちらでもよいこととした。さらにDICOMO2015では、申込み時の概要入力を論文フォーマットに準拠させ、概要からの論文作成がスムーズに行えるようにした。

その他の本論文の体裁については「情報処理学会論文誌(ジャーナル)原稿執筆案内」

(https://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun_j_prms.html)に準拠する[1]。このフォーマットは、上記案内に準拠しつつ、情報処理学会の許諾を得てカスタマイズしたものである。

なお、著者も含めて論文誌作成に関わる全ての人々の労力を軽減するためにも、原稿を作成する前に執筆案内を良く読んで規定を守っていただきたい。

なお、DICOMO2022向け原稿に関する特記事項として、以下に留意いただきたい。

- 周りの余白(ヘッダやフッタ)に、学会名やコピーライト、ページ番号などを記入しないこと。
- 最後のページに著者紹介を記入しないこと。

参考文献

- [1] 情報処理学会: 情報処理学会論文誌(IPSJ Journal)原稿執筆案内, 情報処理学会(オンライン), 入手先 <https://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun_j_prms.html> (参照 2022-03-01).

¹ 架空大学

University of Kakuu

^{†1} 現在、架空株式会社
Kakuu, Corp.